

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	生徒が自ら課題を発見し解決する探究力を身に付けながら、進路希望実現に向けた力も身に付けられる授業改善を実施する。 これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動を充実させる。	①組織的な授業改善テーマ「深い学びの実現に向けた授業実践」について全教科で研究を行う。 ②SS 課題探究において外部資源を活用し、生徒の探究力を育成する。	①授業研究月間を設定し、相互に授業を参観し、また公開研究授業を実施して改善を進める。 ②大学と共同の高大接続教育課程の研究母体を作り、協議を開始する。	①生徒による授業評価の結果。 ②高大接続教育課程協議の進捗状況。	①年間のテーマを「躰きと領きのある授業」とし、授業研究月間を2回実施した。またシェアカフェを開催し、深い学びの実現に向けて授業改善方法を協議した。生徒による授業評価でも肯定的な回答が9割を超えている。 ②東京都立大学と協議を開始した。	①引き続き生徒に考えさせ、深い学びの実現に向けて「単元の指導と評価の計画」を改善する研究を進めていく。 ②まずは来年度開講のSS物理・SS化学・SS生物の授業内容について協議を進めていく。	①生徒による授業評価と学校生活の相関関係を見るとよい。 ②県相人材バンクの取組は重要である。学習、キャリア・進路指導等いろいろ大切である。SSHのみならず、範囲を広げていくとよい。	①組織的な授業改善テーマ「深い学びの実現に向けた授業実践」について全教科で研究を行い、授業改善を進めることができたが、アンケートの活用方法に課題がある。 ②高校及び大学の一贯した学びの仕組みである高大接続教育課程開発を開始することができた。	①生徒による授業評価と各種アンケートの相関関係を見ることにより、需要改善の更なる深化を図っていく。 ②まずは来年度開講のSS物理・SS化学・SS生物の授業内容について協議を進めていく。
2	生徒指導・支援	校訓「礼節・信義・根性」、モットー「文武両道・切磋琢磨」を基盤とする高い次元での教育活動の展開を通し、獲得した知識・技能を活用し、多様な人々と協働的に活動し、リーダーとして社会に関わろうとする人材を育成する。	①学校行事・部活動を通して生徒の責任感・社会性を育むとともに、リーダーとして必要な資質を育成する。 ②教育相談体制を充実させ、困り感を持つ生徒の早期発見・対応にあたる。	①生徒たちが主体的に学校行事や部活動を行い、生徒自らが課題発見・課題解決できる環境を整える。 ②教育相談コーディネーターが中心となってSC・SSWとの情報共有を密にし、保護者とも積極的に連携して困り感を持つ生徒のケアにあたる。	①学校行事が主体的に実施できたか、アンケートを実施する。 ①部活動の参加人数及び活動内容。 ②コア会議、ケース会議の開催状況、困り感を持つ生徒の改善状況。	①SSCの生徒を中心に体育祭及び文化祭を運営し、生徒たちが異装解除など主体的と協調性を育む体制を構築することができた。 ①部活加入率は高く維持することができた。 ②子どもサポートドッグを活用することで教育相談コーディネーターとSC・SSWが連携し、チームとしてケアが必要な生徒の支援を行うことができた。	①体育祭の応援の華の衣装作成について市販の衣装を使うなど考えていく必要がある。 ①新入生の加入が少ない部や同好会がありサポート体制充実をはかる。 ②担任面談の時間をきちんと確保し、より充実したケアが出来るようにしていきたい。	①文化祭なので異装の基準は少し緩くてもよいと考える。 ①どうしてもその部活動に入ったかアンケートを取ってみると、部員が少ない部活動に対する方策が見えるのではないかと。 ②授業時間の短縮をしてでも担任面談の時間を確保し、生徒たちと話す時間は貴重である。 ②子どもサポートドッグで上がる案件とともに、進路サポートもよろしくお願いしたい。	①生徒主体の体育祭・文化祭運営、また生徒主体の部活動を通して生徒の責任感・社会性を育むとともに、リーダーとして必要な資質を育成することができたが、部活動のサポート体制充実に課題がある。 ②子どもサポートドッグを活用し、困り感を持つ生徒の早期発見・対応にあたることができたが、面談時間の確保に課題がある。	①文化祭の異装基準について生徒たちと協議を重ねていく。 ①アンケートを活用して部活動の活性化を図る。 ②校務を工夫して、授業時間を確保しながら生徒たちと話す時間を捻出する工夫を考えていく。
3	進路指導・支援	将来の自らの姿を意識した、大学やその後につながる学びの継続性と、社会で求められる資質・能力が身につくキャリアプラン作りを指導し、主体的、継続的・計画的に	①校外の研究成果発表会、科学の甲子園や科学オリンピック等への参加者を増やす。 ②継続的・計画的に粘り強く取り組む力を育成する	①意欲のある生徒を中心に、参加するよう促すとともに、事前指導を充実させる。 ②模試、高大連携講座、面談等を効果的に配置し、継	①校外の研究成果発表会、科学の甲子園、科学オリンピック等の参加生徒数及び結果。 ②キャリアプランの作成状況。	①科学の甲子園には7名、科学系オリンピックには45名参加した。大学の論文コンテストで1名入賞した。 ②暦年のキャリア行事に加え「学部学科研究」「大	①今後、大学や学会系の論文コンテストにも積極的に参加させていく。 ②今年度、新規に実施した行事を深化させ、本		①科学の甲子園や科学オリンピック等への参加者を増やすことができた。 ②継続的・計画的に粘り強く取り組む力を	①大学や学会系の論文コンテストに参加する生徒を増やしていく。 ②県相人材バンクを活用した県相先輩

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		粘り強く物事に取り組む力を育成する。	キャリアプランを作成する。 ②生徒の進学に対する意識を高め、学力向上につなげる。	統的・計画的に粘り強く取り組む力を育成する。 ②県相人材バンクを活用し、卒業生による講演を企画したり、卒業生をメンターとして活用する。		学模擬授業」「出願指導検討会」「県相先輩セミナー」を新規に実施し3年間でのキャリアプランを完成させた。 ②「県相先輩セミナー」を実施した。	来の目的を達成できるまで、精度を上げたい。 ②年度末の「県相先輩セミナー」のスピンオフにて少人数の集いを季節ごとに実施する予定。	セミナーを伝統化していただきたい。	育成するキャリアプランを作成することができた。	セミナーを定期的 to 実施し、生徒の進学に対する意識を向上させていく。
4	地域等との協働	地域から期待されるニーズを理解し、教育活動を地域と連携しながら実施し、学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を通じて豊かな人間性や社会性を涵養し、社会に貢献できるリーダーを育成する。	①本校の取組を積極的に発信し、地域や中学生及びその保護者に理解してもらう。 ②学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を設定し、豊かな人間性や社会性を涵養する機会を作る。	①ホームページを整理するとともに、こまめに更新する。 ①学校説明会等に生徒も参加してもらう等、効果的な広報活動を行う。 ②学校運営協議会制度を活用して、学校外において生徒が豊かな人間性や社会性を涵養する機会を増やしていく。	①ホームページの整理状況および更新状況。 ①学校説明会の実施状況および参加人数。	①ホームページの項目や画像を整理するとともに、学校状況について、適宜更新をおこない、新しい情報発信に努めた。 ①第1回学校説明会参加者数約800名、第2回学校説明会参加者数約550名、第3回学校説明会参加者数約350名と多くの参加があった。 ②全公立展、公私合同説明会に各7名の生徒参加があった。また、部活動を主体とした地域との交流や、地域貢献活動において近隣の清掃活動を行うことができた。	①ホームページの情報更新をより早く実施できるよう、速やかな情報集約と発信を行う。 ①より多く参加ができるように、実施方法について検討する。 ②地域との交流を引き続き支援していきたい。	②高校生が地域行事に参加すると大変喜ばれる。機会があればぜひ参加していただきたい。	①ホームページの整理や、学校説明会の工夫により、本校の取組を積極的に発信し、地域や中学生及びその保護者に理解してもらうことができた。 ②学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を設定し、豊かな人間性や社会性を涵養する機会を作ることができた。	①ホームページの情報更新をより早く実施し、学校説明会の実施方法について検討することで、より効果的な広報活動を行っていく。 ②学校の行事等を見ながらできる範囲で地域行事に生徒の参加を促していく。
5	学校管理 学校運営	生徒の多様な活動を引き出しつつ、安全安心に生活するための学習環境整備や、生徒と向き合う時間の確保や事故の未然防止のための働き方改革に向けた、組織的で機動的な学校運営を進める。	①生徒が安全安心に生活できるための学習環境整備を進めるとともに、非常時の安全確保について体制を整える。 ②教員の働き方改革を推進し、教員が生徒と向き合う時間を確保し、生徒の事故を未然に防ぐ。	①危機管理マニュアルを整備し、職員に周知・共有する。 ①具体的に災害を想定して、効果的な防災訓練を企画し実施する。 ②ICTを活用した会議の効率化、情報の電子化による共有を進める。	①危機管理マニュアルの整備・共有状況。 ①防災訓練の実施方法及び回数。 ②ICTを活用した業務の効率化の達成状況。	①ガイドラインに沿った危機管理マニュアルを改定し、職員へ周知した。 ①DIG、シェイクアウト、避難訓練・消火器体験等、防災避難訓練を年3回実施した。 ②すくーるねっと日々出欠管理と欠席等連絡システムの導入により、生徒情報のより正確な把握と業務の効率化及び改善に活かすことができた。	①マニュアルの周知徹底をおこなう。 ①訓練内容を更新し、次年度も生徒が飽きなく自ら考える訓練とする。 ②ICTの運用方法やそれに伴う課題について、学校全体で共通理解と実践が求められる。	①緊急時、高校生は避難所の支援者になることを求められると思う。ぜひこの点について教える時間を設定してほしい。 ②先生方の負担を減らすことはどんどん進めてほしい。	①生徒が安全安心に生活できるための学習環境整備を進めるとともに、非常時の安全確保について体制を整えることができた。 ②ICTを活用した教員の働き方改革は一定程度推進することができたが、業務のスリム化はまだ工夫の余地がある。	①緊急時、高校生が避難所の支援者になること等、いろいろな場面を想定し、工夫した実効性のある訓練を行っていく。 ②引き続きICT活用、業務のスリム化を推進し、教員の働き方改革を進めていく。